

★当教会の初代主任司祭

ロワゼール神父様からの手紙

高幡教会のみなさまへ

主よ、あなたにゆだねます
主よ、わたしをゆだねます

ジャン・シャルル・ロワゼール

叙階六十周年を考えると、おそらく周りから見て随分長いと思われるでしょうが、本人だとなかなか実感しないし、いつのまにかそうなってしまうと感じます。

五十周年のお祝いするとき、高幡教会の皆さんが作成してくださった記念誌を新たに読んでみてもこれも十年前のことなのに、昨日のように思いました。時は早いということだけでなく、ずっと夢中になって過ごしていたということかも知れません。素晴らしい映画を見ているようで、時間を忘れていくというようなことでしょうか。でも、素晴らしい映画にも、やはり色々できごとがあり、喜ばしいことも、悲しいことも、暖かく感じることも、冷たく感じってしまうこともあるのです。

今月をもって閉じる年号「平成」と違い、人生、そして、司祭の使命も決まっています。「平成」ではありませんね。

しかしながら、大勢の仲間を支えられ、たくさんの方と分かち合う経験をする中で、僕はなんと恵まれたものかと心から感動している今の自分です。

カトリック司祭とは、どんなものでしょう。そして叙階六十年とは、なんでしょう。信徒の皆さんの頭におそらく、ミサに関係している職務と浮かんでくるかも知れません。たしかに、司祭の主な使命はイエスの最後の晩餐を「現在化」する偉大なものでしょう。でも、それをなさるのは、司祭ではなく、キリストご自身です。ですから、司祭は、キリストにつかざるもべに過ぎません。何にも自慢することはなく、ただただ、毎日それだけで相応しく生きることです。しかし六十年間の司祭生活でも、まだまだもの足りないですね。

さて、僕は、皆さまと別れる時にあたって、どのぐらい許していたかなければならないでしょうか。司祭、宣教師としてつたないことは多かったことに違いありませんが、それは、皆さんの寛大なゆるしの心にお任せするしかありません。

これから自分の人生がどうなるかをもちろん知りませんが、いままで、僕は毎日のことを神様にゆだねていました。それで毎日、しあわせでした。これからも、日本の大勢の友人を思い出し、その幸せを祈りながら、神にゆだねてまいります。

高幡教会のみなさま、本当にありがとうございました。✠

☆当教会の初代主任司祭

ロワゼール神父様へ送る手紙

神父様に感謝！

ありがとうございました

五月十九日のさつき祭ミサで、今年三月頃から募集しましたお祝いと、送別の手紙とハガキをロワゼール神父様に手渡しました。掲載の同意が得られた手紙とハガキをご紹介します。(編集部)



ロワゼール神父様を囲んで

神父様との思い出は、我が家の宝物

ダイアモンド祝、神様の御摂理に感謝いたします。心からお慶び申し上げます。神父様が日本を離れられる日が来るとは考えられませんでした。私たちの家族全員、大変お世話になりました。沢山あり過ぎる感謝の気持ちをどうお伝えしたらよいかわかりません。

初めて神父様にお会いした時のepisodeは、メルセス会日野修道院がこの地に來られて間もないクリスマス夜の深夜ミサです。修道院御堂の静肅で荘嚴な雰囲気の中で、ミサに授かった私たち夫婦は主の招きを感じた思いは、永遠に忘れられないものです。まだ神父様のお名前もシスター方のお名前も存じあげない時です。

次男が光塩幼稚園に入園をきっかけに、私も高幡教会のごミサに授かるようになりました。長男もシスターアンヘレスから教えを受け兄弟が復活祭で洗礼いたしました。次男はB.S活動、長男は教会学校、多摩ブロックと教会活動でお世話になり、夫は、B.S団委員を仰せつかり教会に繋がる事が出来ました。

私が教会の為に奉仕できる唯一なもの、それは聖堂を飾る生花です。ひよんな事から神父様からお声をかけて頂き喜びのうちにお引き受けしました。とりわけ神父様からご指導頂いて復活祭に喜びを表した黄色い水仙の花をいっぱい飾った事は

忘れられない思い出です。

その他 神父様との思い出は書ききれません。我が家全員の宝物です。
ご健康を心からお祈りいたします。

叙階六十周年をお祝い申し上げます

神父様が多摩丘陵高幡の地に教会を創立され、長い間お働き下さったことに心より感謝いたします。小さな集いであった高幡教会は多きな家族になり、いつも沢山の笑顔があふれています。

私は神父様が高幡から移動された後、ルイ神父様の時代に教会と出会い、信者となりましたが、皆様がロワゼール神父様を敬愛し、信仰の揺るぎないよりどころとされていることを今も実感しております。そして、その熱い思いは私にも受け継がれていると信じております。

これから故郷カナダでの新しいご奉仕の日々に、神様の祝福がゆたかにありますようにお祈りいたします。



胸をときめかせた神父様

高幡教会設立当初からお世話になりました。母は十四年前に帰天し、その後洗礼を受けた父も七年前に帰天しました。ポーンイスカウトでお世話になった弟は、教会からは距離を置いておりますが、妻子に恵まれ、中学校という職場にそれなりの仕事をしているようです。

三十歳前半の外国人の神父様が、バイクにまたがり目の前に現れた時、当時の母たち女性信者は胸をときめかせたようです。目がハートになっていたことでしょう。

この度、故国にお帰りになるといふことで、大変寂しくはありますが、どうぞごゆっくり穏やかな日々を過ごされますように。

ロワゼール神父様に感謝を込めて

音楽がお好きな神父様にお聞きしたことがあります。「もし神父様が神父様ではなかったら？」神父様のお答えは「指揮者」でした。オーケストラに向けて指揮をなさる姿は容易に想像できまし、神父様のオーラでたちまちロワゼールさん。パイプの効いた音楽が飛び出て、聞く人々を魅了するのだら

うとそんな場面を勝手に想像もしました。でも、神父様が指揮をとられたのはオーケストラではなく何も無いところから立ち上がった高幡教会のことだけを考えるとたくさんの人々とお仕事に向けての指揮でした。

教会、ボーイ、ガール、幼稚園、多摩プロックの青年たち、皆が神父様の指揮のもとで活動していました。私といえば、小さな子供たちの子育てまっ盛り、時々神父様が家に立ち寄って子供たちの相手をして下さったことがとてもなつかしく思い出されます。神父様に馬乗りになってもう馬が疲れ果てているのいつまでもしがみついていた神父様の背中の中の温りを大人になつた彼らは覚えているでしょうか。会社人間だった夫も五人目の子の洗礼の後の復活祭に神父様に洗礼を授けていただき、六年経って六人目の子もまた洗礼を授かり、カトリック家族として今日までこれたのはロワゼール神父様の三拍子でも四拍子でもない三角や四角におさめてしまわないゆるやかな指揮振りに丁度よく乗れたたからだ、今思います。

青い空と緑の木々をバックにお立ちになる姿が「さあもつと先へ行きましょう」と私たちに呼びかけているように見えます。司祭六十周年のお祝いの後もずっとお元気でいらして下さいね。



ありがとうございます！ロワゼール神父様

ロワさんの愛に包まれてチビだった私たちもオジサン、オバサンになりました。優しい笑顔、きれいな声、抜群のセンスをいつまでもよく覚えていきます。いつまでもお元気で。

これからもお元気で

長い日本でのミッション、お疲れ様でした。私は教会では一緒にすることがありませんが、神父様が作られた高幡教会が五十年を迎える時に一緒にミサに与ることが出来てとても嬉しいです。

多分、一杯労苦なさつて教会を作り上げて下さった事と思います。旅行では何度も一緒にさせて頂いてありがとうございます。特に母が亡くなってすぐトルコに行った時にはご心配をおかけしてごめんなさい。

カナダにお帰りになるとうかがいました。どうぞこれからも健康でお元気に過ごされることとお祈りしています。

叙階六十周年おめでとうございます

カブスカウトの時から神父様に接し、ボーイでは宗教章の勉強を覚えていただき、スカウト活動から離れた時は中高生会の活動にも誘っていただいたのに、以降、教会から二十年近くも離れ、神父様に何の便りも送らなかつた私は、あまりよい教え子ではなかつたと思います。教会で「上智大学の神学部への進学を考えたりはしませんか」と話して下さった神父様に、「高年生だった私が「僕は官僚になりたいのです」と答えた時の、神父様の複雑なお顔を今でも覚えています。

洗礼を受けた時、「君は求めているものがあつたから、いつか必ずこの日が来るであろうと思つていましたよ」と言つて下さいましたね。その通り、私は二十年間さまたい続け、人を失い、傷つけ、逆に深く傷ついたこともあつたけれども、今は、「キリストを信じる者になつたことは、僕の人生で起きた最も素晴らしいことでした」と言える心境に少しだけ近づけたような思いがしています。そして、私がキリストを信じる者になつたことは、ロワゼール神父様との出会いなしでは、決して私の人生に起こらなかつたことでした。

神父様がケベックに戻られることはとても寂しいですが、祈りでつながつていてと信じています。神父様のご健康とお幸せをいつも祈っています。そして、神父様が礎を築かれた高幡教会が、これからも暖か

く、活気あふれる場所であり続けることができるよう、私まんばります。心からの感謝を込めて。

ありがとう、神父様

もう三十年以上前になるでしょうか。インドでマザーテレサが路上生活者や死にゆく人々の為に献身的に活動している事実を知り、参加と木綿の古着や古布の寄付を募り、パッチワークで路上生活者の為の木綿の毛布を作製してマザーの所に送る小さな活動が数名で始まりました。三階の会議室をお借りして毎週木曜日に作業していましたが、ロワゼール神父様は何も意見をなされず、ただ皆を見守って下さいました。

寒い冬の日には、既に部屋を暖かく用意して下さっていて、感謝の内に暖かく作業をする事が出来たものです。

何もそんな物を作らずとも寄付金を送った方が良いと言った意見も耳にしましたが、寄付された古着や古布を裁断し繋ぎ合わせ芯を入れ毛布を仕上げ、その過程で、一人ひとりの心も繋ぎ合っていくのが実感でき、喜びを感じながら皆の気持ちの一つになっていきました。寄付された古着や古布が多く集まりすぎるといふ贅沢な悩みが生じていましたが、神父様から救

い手が差し伸べられ、坂を上がりきつた竹林の前に建てられた小屋に（今は存在しません）、皆で荷物を運び入れ一件落着、と色々ありましたが、タンポポの会はそのように陰での神父様の力添えて出発しました。

台風でなぎ倒され放出された高尾山の杉の木を神父様がもらい受けてログハウスを建てられた時には、日頃の感謝を込めて皆でお手伝いすることが出来たのも今では楽しい思い出です。

神父様が移動される時は、寂しさを乗り越えるため、皆で其々刺繍した布を持ち寄ってベッドカバーを作って差し上げました。皆一生懸命に感謝の思い出で作り上げ素敵なカバーが仕上がりましたね。

神父様がお国に帰られるのは寂しく悲しいことですが、又お会いできることを願って、何時までもお元気だと、お祈りいたします。

信仰の光と感動を下さった神父様

感謝の気持ちでいっぱいです。一番は一九七三年に高幡教会（当時の日野光塩幼稚園二階講堂）で私たち家族三人に洗礼を授けて下さったことです。

ロワゼール神父様とレイモンド神父様お二人の司式で私と長女、二女は受洗いた

しました。次は高幡教会の建物の建立を私たち信徒に提唱し、我慢強く説得し続けて下さった事、現在の立派な高幡教会の礎はあの頃のロワゼール神父様の御提言の賜物です。

次に私がつとも感動を受けたことは私の二女の結婚相手、未信徒だったMの中年になってからの受洗です。二女はMの故郷、青森在住で、四人の子育てに忙しく今迄教会とは疎遠になりがちな生活でしたが、二年前に未信徒だったMの突然の受洗があったことです。Mは中大生だった頃ロワゼール神父様と接点があったそうですが神父様の他教区への移動があり、M本人も卒業後、青森へ帰郷して就職し、二女と結婚してずっと青森での定住生活が続いております。ところが、三年前にロワゼール神父様が突然、青森へと移動となり、神様の御計画だったのか神父様とMが三十年振りに再会したのです。私の二女の結婚相手、未信徒だったMの中年になってからの衝撃の受洗です。

Mの信仰の芽に光りが当たったのでしようか。神父様が三十年前に蒔いた種が芽を出して開花したのです。二年前の御復活祭にMはロワゼール神父様司式の青森八戸塩町教会で洗礼を授かりました。私も新幹線に乗り感動の洗礼式に列席して翌日の茶話会では久々に神父様とお話することが出来て素晴らしい復活祭でした。

その他で神父様との思い出になったことは神父様と一緒した二度の巡礼旅行、でした。特に心に響いたので海外旅行のイストラエルの思い出でした。ガリラヤ湖畔の宿

の三日間に経験したことは私にとつて素晴らしい思い出となりました。

又、国内巡礼旅行で神父様とご一緒した長崎と長崎五島の殉教の歴史を辿ったことも、長崎に行つて本当に良かったと心から思いました。長崎二十六名の殉教者像の一番年の若い少年の霊名をロワゼール神父様からつけていただき、私の孫、Mの息子が十二才で今年の復活祭で受洗しました。これで私の家族の信者は五名、五名全員がロワゼール神父様からの受洗です。

ケベックに帰国なさることは寂しい限りですが、五十年の長い間、私たち家族に信仰の光と感動を与えて下さり、ただただ感謝の一言です。ありがとうございます。

司祭叙階六十周年

おめでとうございます

六十年というとても長い月日のほとんどをカナダの御家族と離れ、司祭として私たちに寄り添い、御導き下さったことに心より感謝いたします。

神父様との思い出はそのどれもが神父様の笑顔と共に温かく心に残っています。

母が「神父様は厳しさを深く秘めた柔和な春の海、絶えず打ち寄せて私たちの心を訪れ、一番大切なものを運び続けてくださいます」と優しいお人柄やお言葉からは神

父様の創られた人と自然を愛される御心がしみじみと伝わってきます。

お別れは本当に淋しいですが、神様がロワゼール神父様を私たちのもとに遣わされて下さったことに感謝し神父様の教えと美しい聖歌を胸に祈っていききたいと思

います。
神父様、どうぞお身体に気を付けていつでもお元気でいらして下さい。
いつまでもお元気で。

慰めと平安を下った神父様

司祭叙階六十周年おめでとうございます。長きに渡り私たちをお導き下さり本当にありがとうございます。

私が初めて神父様にお会いしたのは大學生の時でした。口べたで引っこみがちな私を神父様はいつも温かく迎えて下さいました。

また事情により教会での結婚式を諦めなくてはならなかった時、神父様のご配慮で思いかけずメルセス会修道院の聖堂で結婚の祝福を頂いたことは生涯忘れられない思い出です。結婚後しばらく教会に行かない時期もありましたが、その思い出が私の心の支えとなりました。今、共同体の一員としてイエス様につながっていらっしゃるのも神父様のおかげと感謝しております。

す。

母の葬儀の時も仙台からかけつけて下さり、ミサの司式をして下さいましたね。夫も妹も私もとても感謝し慰めと平安を頂きました。

神父様がカナダに帰国されるのは寂しいです。お世話になった私たち家族を代表して感謝の気持ちを込めてお別れの手紙をおくらせていただきます。

ロワゼール神父様、長い間本当にありがとうございます。どうぞこれからもお元気で過ごして下さいませ。そして時々高幡教会を思い出して下さい。

暖かさや強さを持った神父様

司祭叙階六十周年おめでとうございます。

年を重ねた外国人宣教師の神父様方には共通するものを感じます。入堂し祭壇の前に立つだけで聖堂の中の人たちを幸せな気持ちにする力があるのです。言葉を必要としない一時。それはいったい何なのだろうと考えます。家族を離れ、故郷を離れ、国を出て遠くことばも通じない、文化も違う国でイエスを伝えたいという強い想いだけで歩まれたその道のりが祭壇の前に立つだけで人々を幸せにすることのできる司祭を作ったのでしょうか。暖かさや強さ

を持ったロワゼール神父様が私の信仰生活の中に居て下さったことを心より嬉しく思います。

特に召命についてのお話をゆっくり聴くことのできた赤堤教会での時間は一生大切に心の中に仕舞っておきます。八十才を過ぎてなお司牧にあたってこられたこと感謝するとともに神様に選ばれた存在であると感じております。

美しい故郷ケベックでゆっくりとお過ごし下さい。日本の教会のためにお祈り下さい。

感謝でいっぱいです

六十年近く前、夫がロワゼール神父様と出会ったことがこのような今につながる事、何と手のこんだ素晴らしい神様の計画でしょう！

私たちの結婚準備の時、高幡の修道院にいらした神父様の元に何回か二人で通いましたね。何のお話をされたかほとんど記憶にないのですが(ごめんなさい)何度も「開かれた家族」という言葉を繰り返されたことだけは覚えています。

あれから四十二年、いつも神様に向けて開かれた心で、隣人に向けて開かれた心で家庭を作ってこられたでしょうか。今改めて振り返ります。娘たちの結婚の司式もし

て頂いたこと、持病を抱えての長女の出産の折は「腹帯」の祝別までして下さい、不安がすつと消えました。孫たちも元気に大きくなりお腹の中で祝別して頂いた子は三年生、夫が神父様と出会った年頃です。先の時間が限られた母の洗礼を導いて下さったこと、母は安心して旅立つことができました。そして、JCCSのさまざまな活動、共にいて下さったたくさんの方が浮かんでいきます。

私たち家族、教会という家族、スカウトという家族、たくさん家族を大きな愛で包んで、いつも一緒に歩んで下さったロワゼール神父様。心からありがとうございます。カナダはちよつと遠いですね。でもこれからもずつと一緒と思っております。どうぞいつまでもお元気でいらして下さい。たくさん家族がお祈りしています。

「神我らと共に」

ロワゼール神父様との出会い

ロワゼール神父様(ロワさん)が来日したころの写真を見ました。多分昭和三十九年(一九六四年)東京オリンピックの頃だと思えます。ケベック外国宣教会(現在の赤堤教会)のバザーの時だと思えますが、私の一年先輩のスカウトと一緒に写真です。ロワさんが箸の持ち方を練習してい



るシーンです。今になって思うのですが、宣教師の方々は「すごい」と思うのです。私の実家は赤堤で、教会とは歩いて七、八分程度のところですが、ケベック外国宣教会は戦後間もない昭和二十三年(一九四八年)に赤堤の地で宣教活動を始めた。戦後間もないこともあり、地元の人たちには「へんな外人が住むようになって」と必ずしも歓迎された訳ではありません。

そのなかで、マリア幼稚園やボーイスカウト(現世田谷九団)をはじめ、地元の方たちとの出会いの場を積極的につくっていかれました。ボーイスカウトは、最初は信者の子供三人で、教会のガレージで始まったそうです。その後、地元の鼻たれ小僧やガキ大将が加わっていきます。私もその一人です。そのような頃にロワさんが来日しました。ロワさんは来日間もなく、日本語の勉強の為に世田谷区立松沢小学校の国語の授業を受けています。小学校の小さな机に、大きなロワさんが国語の授業を聞く姿を思うと、可笑しくなります。時々、アコーディオンを弾いて子ども達と歌ったそうです。ロワさんと小学校同級生のスカウトの話です。

また、日曜日の夕方になると、教会から神父様がぞろぞろ、手ぬぐいをぶら下げて玉電松原駅近くの銭湯に行くことがありますが。最初は番台のおかみさんも驚いたことだと思えます。これも可笑しくなりません。

そんなこんなで、地元で溶け込む、地元の方々と出会うことを楽しみながら積極的に行ってこられたことには、頭が下がる思いです。ロワさんは、一九六八年ごろからメルセス会日野修道院付の司祭として異動になりました。赤堤に居た私たちとしては、寂しい思いをしましたが、その後も交流が続いています。

まさか私たち家族が大阪に転勤して、東京に戻った今から二十七年前に高幡教会に移籍することになるとは思いませんでした。そして、ロワさん達が尽力して立ち上げたボーイスカウト・ガールスカウトとこのように関わるとは思いませんでした。

ロワさんは、ラサールの A 先生やシスターエルビラや B さん、C さん D さん、E さん達と共に、一九七〇年にボーイスカウト日野第二団とガールスカウト東京第七十七団を立ち上げました。幼稚園の園児が卒園すると未信者の園児は教会に来なくなります。それは寂しい事なので、教会に来る機会を作るためにも「ボーイスカウトとガールスカウトを設立しよう」となったと聞いています。

ロワさんはボーイスカウトのキャンプには下見から本番まで参加することはもとより、メルセス会修道院の角の部屋に住

んでおられたので、高校生のスカウトやヤングリーダー達が夕方から夜にかけて、時々一泊するなど、その部屋は皆の集会場となることを厭わず、いつも共に居て下さいました。そして、日本のカトリック教会で活動するボーイスカウトとガールスカウトの為に霊的指導を沢山してくださりました。

四年前の山口県で行われた世界ジャンボリーの合同ミサの時も、世界各国から来られた神父様、指導者、スカウト約三〇〇〇人の前で、前田万葉大阪大司教様の俳句混じりのお説教を英語とフランス語にリアルタイムに訳してくれるなど大活躍でした。

私が小学校六年生の出会いから今までのロワさんとの思い出を振り返ると、ロワさんは私たちにとつて「インマヌエル…神我らと共に」を身をもって教えて下さった方だと思えます。この思いは多分私だけではなく、叙階六十年間にロワさんと出会った方々と共通していると思えます。「この出会いがあればこそ、今があります。未来もあります」。

ありがとうございます。感謝でいっぱいです。弥栄。

大丈夫、行けますよ

ロワゼール神父様のカナダご帰国にあ

たり、思いがけず寄稿の機会を頂きました。「銀祝」「金祝」時にも記念誌に寄稿させて頂き、今回三度目！誠にありがたいことです。

タイトルの「大丈夫、行けますよ」はボーイスカウト活動時のロワさんの得意なフレーズです。他にも手にとまった蜂に語りかけた「よく来たね。オマエ」とかいろいろありました。懐かしい思い出です。

ロワさんとは、私が小三で日野二団に入隊した時に初めてお会いしました。あれから四十九年、その優しい瞳と笑顔はちっとも変わっておられませんね。

ご帰国を寂しがる仲間が多いですが、私はそうでもありません。何せロワさんはいつでも私の心の中にいらっしゃって、ちょっと目を閉じれば「ハハ、元氣？」と語りかけてくださるからです。だから寂しくなんかありませんよ。いやホント！

ロワさんに出会えて本当によかった。尊い教え・幸せな時間をたくさん頂戴しました。

どうぞ母国での日々が平和で安らかなものでありますように。

「名残は尽きねど 感いは果てぬ
今日のひと日の幸 静かに思う」
どうぞお元気で！



「全ては神様の計画」を信じます

叙階六十周年たいへんおめでとうございます。神父様にはまだ一度もお会いした事はありませんが、さつき祭でお目にかかれるとの事、楽しみにしております。

私はこちらの教会に御縁を頂いてまだ半年です。この四月に転会式に与らせて頂きました。教会の献堂に尽力されたロワゼール神父様がおられたから私は今、この教会の御ミサに心を向ける事ができています。

本当にありがとうございます。日々、神様に祈り、マリア様の取り次ぎにより私の心はますます力強く歩むことができます。

すべてのことが神様のすばらしい計画の元になされていることを信じます。そして、この高幡教会がさらなる神様の祝福を頂きますよう祈ります。

ロワゼール神父様、どうぞお休みを御慈愛下さい。帰国後の日々も神様の大きいなる祝福がありますように。

洗礼盤のこと

かれこれ三十五年ほど前の洗礼式のお

話です。娘と私が緊張して見つめる祭壇の横にはしゃこ貝の形をした大きな洗礼盤が用意されていました。そっと覗き見るとそこには教会の裏の森から集めてきただろう青々とした苔と小さな蕈の花々がつつましく春の訪れを告げています。

苔の緑、蕈の紫、透明な水という凝縮された小宇宙の上を、四月の爽やかな風が通り過ぎていきます。なんて祝福に満ちた洗礼式！

神様の創られた自然を賛美しつつこんな第一歩を踏み出したことは、私にとってその後の人生を肯定的に生き抜く、大きな力になっています。

あの美しい洗礼盤は、自然を愛するロワゼール神父様の細かな心遣いと共に、忘れがたい思い出です。

ロワゼール神父様

私は高幡教会では日の浅い信者ですが、神父様がどんなにこの教会にご尽力下さったかお話はいかがつております。ご帰国されてからもどうかお健やかにとおくり下さいませ。

司祭叙階六十周年

おめでとうございます

そんなに長い間、日本の信者のために働き下さったのですね。ありがとうございます。この日野の緑の中でギターをかかえて歌っておられたお姿が目にかかび、そのお声も響いています。どうぞカナダでも歌声と共に、神様のご奉仕を楽しめますように。

半世紀にわたる

日本での活躍に感謝

ロワゼール神父様、一九六九年の秋、メルセス会幼稚園の二階にあった聖堂で、初めて、神父様のミサに与ってから半世紀余りの年月が流れました。

翌年、日野市のうち、浅川以南の地を受け持つ豊田の分教会として出発しましたが、今や南北多摩一帯の広大な地域を布教地とする教会にまで発展しました。信者数も七百を超えるほどになりました。あの時、子供を含めて二十名足らずの信者のうち、比較的元気な大人は、九十二歳の私ひとりになったようです。

ただ、シスター・エルビラが、百歳を越えてご健在なのは嬉しいことです。当時、小学一年生と幼稚園児であった二人の息子も中年の社会人に成長しました。今、神父様が日本での任務を終えられ、母国カナダにお帰りになられるのは、寂しいことですが、これも神様のみ旨と思ひ、帰国された後も、健康な日々を送られ、引き続き、活躍なさいますようお願いいたします。

なんとという恵み

四季折々 花々にかこまれたこと
ガリラヤの風に吹かれたこと
美しい歌声を聞いたこと
雨の日は 雨を楽しんだこと
種蒔きのお手伝いが出来たこと
喜びの実に涙したこと
偉ぶらない姿に謙遜を学んだこと
静かに 心寄せてくださったこと
まなざしに 癒されたこと
祈っていたいただいたこと
ゆだねること

ロワゼール神父様に出会った人は幸い。なんとという恵み！私も幸せ者の一人です。

す。神父様から頂いた「お言葉」にどれだけ支えられ、心穏やかに希望を持つことが出来たことでしよう。私の大切な宝物です。言葉では言い尽くせない思い出、贈り物に心から感謝します。ありがとうございます。

いかに美しいことか
山々を行き巡り、
良い知らせを
伝える者の足は

宣教師ロワゼール神父様の姿が思いますが、イザヤ書五十二章七節。
大きな手で土を耕し、種を蒔き、丈夫な足でどこへでも出かけて行く神父様。遠く離れた日本の地で、歌うように良き知らせを伝え、歩かれ続けた、ひとすじの道。
司祭叙階六十周年のお祝いを申し上げます。これからはあの美しいケベックで、ごゆっくりお健やかな日々をお過ごしになられますように。愛と祈りをこめて

「まるでイエス様のような神父様」

叙階六十周年おめでとうございます。私が初めて神父様にお会いしたのは一九八六年十月のことでした。その時、教会にいらしたAさん、Bさんに「まるでイ

エス様のような神父様ですよ」と伺ったとおり、階段をおりていらした神父様はまるでイエス様そのものに見えて、私はこの教会に通おうと心に決めました。

その年のクリスマスイブに受洗しました。高幡教会はロワゼール神父様のお人柄そのもののあたたかくとても居心地の良い教会でした。受洗当時、二才だった娘もその後、教会で育ち、三十四才になりました。

ロワゼール神父様、長い間日本の教会のためにご尽力下さり本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。カナダへお帰りになってもどうかお身体を大切になさって下さい。遠き日本よりお祈り致しております。

いつまでもお元気です

司祭叙階六十周年をお迎えたこと、心からお祝い申し上げます。おめでとうございませう。六月頃にはカナダに帰国されるとの事、とても寂しい気持ちでいっぱいです。神父様と巡礼に度々訪れたイスラエル、長崎五島列島など懐かしく思います。神父様健康でいつまでもお元気でイエス様と共に過ごされるようにお祈りしています。感謝！お世話になりました。

叙階ダイヤモンド祝 おめでとうございます

本当に長い間の日本での宣教、心から感謝いたします。特に高幡教会の献堂にわたる愛と献身の沢山のお働きにはどんな言葉でも感謝をお伝えしていいかわからない位です。私が高幡に来たのは幸田司教様からなのですが、多くの方々からロワゼール神父様はこうなさっていたと沢山のお話を伺いました。

Aさんという韓国人のお年寄りの方からはあるお天気の良い日のミサではAさんお一人のためにミサを捧げて下さったと言っておいでした。
宣教師としての鏡とと思いました。どうぞお身体を大切にこれからの神父様のためにもお祈りをお捧げ致します。

これらも末永く

長年に亘る日本での宣教師牧に対し心より御礼申し上げます。

丁度十年前に高幡教会で神父様の司祭叙階金祝のお祝いをした時の写真とその時の報告を「あゆみ」(第130号)に掲載していますので、その文章も茲許同封い

たします。
どうかこれらも末永くお元気で過ごされますよう心よりお祈りいたします。

ロワゼール神父様へ

叙階六十周年おめでとうございます。
約四十年前、私は神父様に洗礼を授けていただきました。当時、神父様はいつも庭の草花の手入れをなさり、お姿は建物の中に見つけられませんでした。木や花や鳥たちと特別な交わりがおありのようにお見受けしました。

幼い長男と娘と一緒に洗礼で、記念に黙想の家の玄関先にピンクのしだて梅を植えさせていただきましたが、これが毎年見事な花を咲かせてくれます。

神父様が高幡を離れられてからも時々お姿をお見かけるチャンスがあったのは嬉しいことでした。お若かった神父様は「堂々なる老人」になられ、二十代だった私も六十代の高齢者。人生は短いのかも知れませんが、でも永遠の命を見つめている我々はこの世の長短とは別の時間軸で生きていますから何の心配もありませんね。神父様、カナダへ行かれてもお元気でいらして下さい。ひよつとすると新しい地でもまた花園を作ったりなさるのでしようか。ご活躍をお祈りいたします。

私にとっての教会とボーイスカウト

私は岡山出身で子供の時、岡山教会で幼児洗礼を受け、十八才の時、東京へ来ました。居住地の変更に伴い、教会もいろいろ替わり、多摩市に引っ越しした時、桜ヶ丘の教会に行くようになりました。その時、ボーイスカウトの入団募集があり、その団が日野二団だったので。子供がカブスカウトの年齢だった為、即高幡の日野二団に行き、入団申込をし、合わせて女房はデンマザーに、私は団委員に、娘はガールスカウト、二男もカブスカウトに入団しました。その頃から子供たちは日曜学校終了後、スカウト活動へ、私たち夫婦も高幡へ通っていました。そんな時、ロワゼール神父様は教会活動はもちろん、スカウト活動にも尽力され、それもスカウトたちにはいつも柔和な顔で接して頂き、キャンプでは教会とのつながりを感じさせて頂ける大きな存在でした。

あれから十数年、子供たちも大きくなり、ロワゼール神父様には長男の結婚式の司祭としてお世話になりました。今では四十才の父親です。

この時期、教会・ボーイの関係のなかで神父様からは多くの事を教えて頂き、お世話になった事を大変感謝しております。本当に有難うございました。いつまでもお元気で過ごして下さい。



(写真) 復活祭パーティー

二〇一九年の復活祭
洗礼式・転会式・初聖体

四月二十日復活徹夜祭ミサの中で一人が洗礼式、四月二十一日復活祭ミサの中で一人が転会式、一人の子供が初聖体の恵みを受けられました。おめでとうございます。

☆教会行事(7月7日～8月4日)

- 7月 7日 年間第14主日
信徒委員会 12:30
- 7月 14日 年間第15主日
- 7月 21日 年間第16主日
- 7月 28日 年間第17主日
- 8月 4日 年間第18主日
信徒連絡会 12:30

◆高幡教会ホームページの URL◆

<http://www.cctakahata.jp>

◆スマホからの QR コード読み取りはこちら◆



<編集後記>

叙階六十周年を迎えられた高幡教会創設者のロワゼール神父様がカナダに帰国され、節目となる教会五十周年を準備されたザビエル神父様がミラノ会本部にご栄転されます。お二人には信徒として感謝の念でいっぱいですし、若干寂しくもうれしい気分です。ある信徒がロワ師への手紙に書かれていた次の文章が信仰の本質を突いています。「人生は短いのかも知れませんが、でも永遠の命を見つめている我々はこの世の長短とは別の時間軸で生きていますから何の心配もありませんね」いつの日か主の食卓を囲んで全員の再開を喜び合ひましょう。カトリック高幡教会の一員で本当に幸せです。